

地域での活動



放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」

放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」に集うのは、配慮を要する子の親やその子どもたち、そして、それを支えようとする人たちです。保護者どうしつながりたい、子どもの放課後の居場所が欲しいという障がい児童の保護者の願いから、2006年5月に設立。枚方市役所別館サプリ村野で放課後保障の活動にかかりました後、2007年4月から毎月一度助言者を囲んで保護者の交流相談会を開いてきました。また、年に1～2度助成金を得て、子ども参加のイベントや、保護者対象の講座などを行っています。会員メンバーの子どもたちの成長に合わせて、2008年から「中卒後の進路を考える」という取組みを行い、3年連続でパネル討論を開き、小冊子『『虹色の十五の春』をめざして～高校選びを考える～』(2009年)を発行しました。

定例の活動としては、8月を除き毎月原則第一水曜日に、誰でも参加できる交流会を開いています。当初は元教員の助言者に対してメンバーから相談が投げかけられ、助言者がそれに答え、次にまた別の質問

が…というような形でしたが、やがてメンバー相互で悩みや相談が共有できるようになりました。仲間に悩みを聞いてもらうことで、気持ちが楽になります。一方、聴く側は仲間の悩みを聞くことにより、自分の課題に引き寄せて考え、自らの課題を客観的に捉え直すことができたりします。控えめであったメンバーが、後輩ママからの相談に対して、「そういう場合は、こうするの!」と確信をこめて語ったり、「何事も度胸。覚悟を決めれば、怖いものなんか何もないわよ」と明るく笑うのを聞くと、仲間に支えられ、子どもと共に親たちも成長してきたのだと思います。メンバーに翻訳者が二人いることを生かし、今年は助成金を得て英語のインクルーシブ教育についての小冊子の翻訳発行に取り組んでいます。

写真説明:2008年11月メナひらかた会館で「アンデスの民族音楽コンサート＆ワークショップ」を開催(枚方市子ども芸術文化育成支援事業)。



特定非営利活動法人 認知症の人とみんなのサポートセンター

本法人の目的は、認知症の本人、家族、その支援者たちを支援することです。

介護保険の利用が難しい若年性認知症や初期の認知症の支援に力をいれています。

認知症の人や家族の居場所作り、相談事業、既存のサービスへの導入、必要な支援方法の研究・研修を行っています。具体的には、次の活動をしています。

①認知症の本人のボランティア活動

毎週火曜日の午後に事務作業などのボランティア活動を行っています。

②アートワーク

絵をかいしたことのない人もかける方法で作品を作り、ハガキやカレンダーにして販売しています。

毎年4月末に事務所の1階で展覧会を行っています。そのほかにも、展示の機会があれば、展覧会を行い、多くの方に認知症の人の力や感性を知っていただく取組みを行っています。

③歩く会

定期的に大阪城公園を歩いています。今年から、長居公園と鶴見緑地公園でも歩く会を作り、家に閉じこもらないようにしています。

④若年性認知症支援者養成研修などの研修

若年性認知症支援者養成研修などの研修を行い、身近な地域で若年性認知症の人や家族が当事者同士で集えるように、サポートを養成しています。その他に、認知症の人同士が話をすることを促進するために「本人交流会」のための研修や「スピリチュアル回想法」の研修を行っています。

⑤認知症コールセンター

電話による相談の他に、家庭訪問やカンファレンスに参加してアドバイスを行っています。

⑥研究事業

若年性認知症の人や支援経験がない家族も、適切なサポートを行えるように、アセスメント票などの開発を行っています。

これらの活動を通じて、介護保険、就労支援などの既存のサービスが利用できるように支援していきます。

詳しいことや、最新の情報はホームページをご覧ください。
<http://minnanospo.grupo.jp/>

